2016（平成 28）年 6 月 18 日（土）　※小雨開催

説明会：午前の部（10:30～11:30）　午後の部（13:30～14:30）

道後湯之町遺跡 2次調査　発掘現地説明会資料

写真１．東上方から撮影した調査地

写真２．弥生土器が出土した様子

写真３．愛媛大学講義での見学の様子

写真４．発掘風景

はじめに

今回の発掘調査は、「椿の湯」西隣の宅地であった場所で実施し、遺跡の記録保存を目的として行いました。

調査終了後は、松山市がまとめた『まつやま創生未来プロジェクト』の大きな柱のひとつとして進められている、『（仮称）椿の湯別館施設整備事業』が実施されていく予定です。

調査の概要

調査の最初の工程では、地表下約 1mまでを重機等を用いて削り取り、その下にある遺物を含んだ黒色系粘質土の「遺物包含層」からは手掘りより調査を進めました。

この遺物包含層からは、縄文時代(*1)後期(約 4 千～3 千年前頃)の縄文土器片・石鏃(*2)・刃器、縄文時代晩期(約 3 千～2 千 8 百年前頃)の縄文土器片・石鏃・石錘(*3)・石斧ならびに大分県国東半島の姫島産黒曜石（石器石材）などが出土するとともに、弥生時代中期（約 2 千前）の弥生土器・石庖丁・石斧や、古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器(*4)片も出土しています。

一方、遺構は調査区の南東部に多くあり、平面形が長方形や円形の土坑(*5)、不整形な性格不明遺構などが 40 基以上検出されています。土坑などの遺構には、縄文時代や弥生時代に構築されたものが多く、中には作業台に使用された台石等が出土したものもあり、当時の生活の様子が推測されるものもあります。

土層の堆積状況などからは、縄文時代～弥生時代の地形は調査地の北東から南西へ、緩やかに下がっていたことがわかりました。調査の結果、旧地形・遺構・遺物からは、道後温泉一帯の土地利用や当時の生活の一端が明らかになりました。

*1　約 1 万 5 千年～2 千 8 百年前頃
*2　矢じり（狩猟用）
*3　魚採り用の網に付ける石のおもり
*4　1100℃以上で焼かれた土器
*5　人が掘った穴

❶事 業 名	（仮称）椿の湯別館施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
❷委 託 者	松山市
❸調査主体	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団
❹調査場所	松山市道後湯之町
❺屋外調査	平成 28 年 4 月 1 日～6 月 30 日

確認された土層や遺構

写真５　遺物包含層（黒色系粘質土）
（南より　05/30 撮影）
※　西壁深掘りトレンチでは最大厚 50 ㎝でした。

写真６　西半部の土坑 SK14（南より　06/03 撮影）
※　３個体以上の弥生土器（壺等）が出土しました。壺内の土からは焼けた骨の小片１点が確認されました。廃絶時に供献行為がなされたのでしょうか。

写真７　縄文時代後期の土器が出土した地点（西より　05/24 撮影）
※　縄文土器（考古資料１）の出土した箇所では黒色粘質土が見られました。

【遺　構】　※ 平成 28 年 6 月 5 日時点の所見です。今後の整理・分析により、数や種類は増える見込みです。

土坑 25 基、小穴 10 基、性格不明遺構 5 基、井戸 7 基、現代坑 3 基

① 縄文時代後期（約 4 千～3 千年前頃）　……SK15・SX03
② 縄文時代後期~晩期（約 4 千～2 千 8 百年前頃）…… SK8・SK10
③ 弥生時代中期（約 2 千年前頃）　…… SK9・SK14
④ 明治時代以降… …… SK1・SK2・SK5~7 ほか

【遺　物】　❶❷ 縄文土器（深鉢・浅鉢）、縄文石器（石鏃・石斧・楔形石器・石錘・二次加工ある剥片等）
❸ 弥生土器（甕・壺・鉢）、弥生石器（石庖丁・石斧各種）
❹ 明治以降の瓦・陶器・磁器等
・その他…古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器片（坏・壺等）が出土しています。

■調査の成果

今回の道後湯之町遺跡２次調査では、今から約 4 千～2 千年前頃の“いにしえの道後”を知るうえで興味深い資料が得られました。

1．縄文時代後期・後期前半~晩期後半・弥生時代中期の遺構と遺物を確認したことから、調査地は、当該期には生活域の一部であったことが推定されました。
2．縄文時代後期～弥生時代中期には、北東から南西へ緩やかに下っていることから、調査地が丘陵の南西裾部付近であったことが推定されました。
3．出土した石器には黒曜石（大分県姫島産）があることから、縄文時代における人や物の移動、交流などを探る資料が得られました。

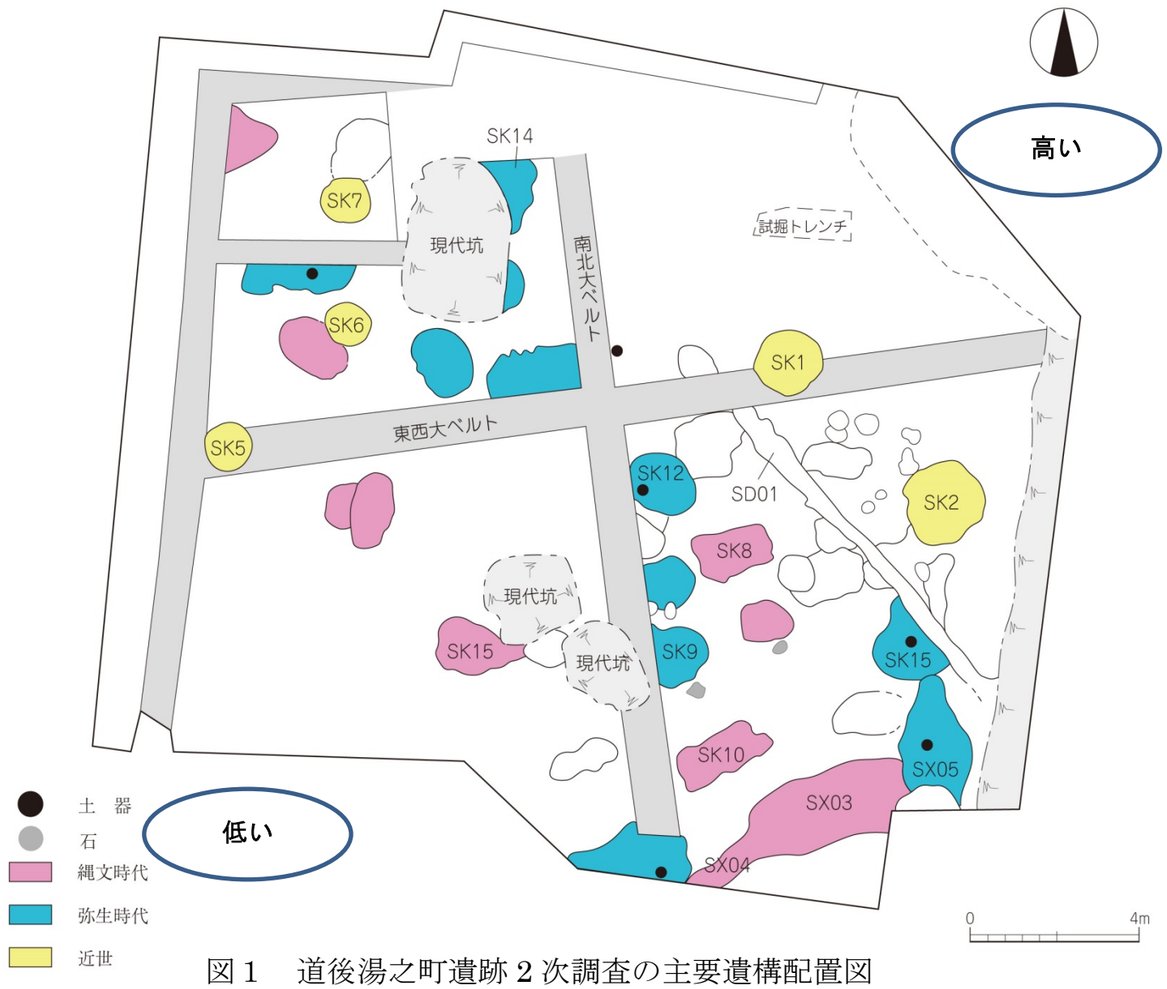


図１　道後湯之町遺跡２次調査の主要遺構配置図

写真８　調査区全景（東上方より　05/21 撮影）
※　調査区内に土層観察用の土壁（ベルト）を十文字に設置し、調査区内を四分割して、手掘りで遺物包含層を詳細に調査しました。

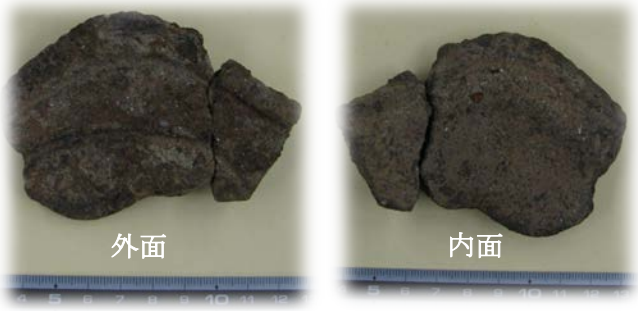
写真９　南東部の遺構（北東より　05/30 撮影）
※　ベルトの土層観察から、遺構には遺物包含層堆積後に構築された弥生時代の土坑（SK9 など）があることを確認しました。

写真 10　土坑 SK11・SK10 等の検出状況（北東より）

主な出土品（展示資料/縄文時代） ※ 所見は平成 28 年 6 月 5 日時点です。今後の整理・分析に伴い、内容が変更する場合があります。

考古資料１

① 名　　称 ： 縄文土器
②時代・時期 ： 縄文時代後期
③ 器種(部位) ： 深鉢（口縁部～胴部上半）
④ みどころ ： キャリパー状に大きく湾曲し、外面には磨消縄文と入り組み状の文様が見られます。



考古資料２

① 名　　称 ： 縄文土器
②時代・時期 ：縄文時代後期
③ 器種(部位)：深鉢（口縁部）
④ みどころ ：口縁部は波打ち、肥厚する内面には沈線文を、口縁端部の外面に斜めに刻み目文を施しています。

考古資料３

①名称：縄文土器
②時代・時期：
縄文時代晩期
③器種(部位)：
深鉢（口縁部）

④ みどころ： 西瀬戸内に水稲農耕文化が伝わった頃に使われていた煮炊き用の土器の破片です。口縁部からやや下がったところに粘土の帯を貼り付け、その上に刻み目文を、さらに口唇部にも刻み目文を施しています。

考古資料４

①名称：縄文石器
②時代・時期：
縄文時代
後期～晩期
③器種：二次加工のある剥片

④ みどころ： サヌカイトの打製石器で、横長剥片の表面下端には細かな階段状剥離により刃縁を作りだしています。表面には礫面が残り、原石から獲得した初期剥片を素材としたことがわかります。長さ 8.6 ㎝。

考古資料５

①名称：縄文石器
②時代・時期：縄文時代
後～晩期
③器種：残核（黒曜石）

④ みどころ： 黒曜石は酸性の火山岩に伴う火山ガラスです。出土した黒曜石は、その色調等から大分県国東半島の北、姫島(ひめしま)で産出したものと考えられます。当時、海上交通を通じて、伊予と豊（大分）との間に交流関係のあったことがうかがえます。

お気に入りの展示資料をメモ……